

第2回熊本城復旧基本計画検証委員会 議事録

日時:令和4年(2022年)12月7日(水) 14:00~16:00

会場:桜の馬場城彩苑 多目的交流施設

出席者:蓑茂委員長、山尾副委員長、伊東委員、北野委員、原委員、三浦委員

熊本県文化課、熊本県都市計画課、熊本市文化財課、熊本市公園課

(リモート参加)国土交通省都市安全課、国土交通省公園緑地・景観課、

国土交通省九州地方整備局、文化庁

事務局:熊本城総合事務所:田端所長、濱田副所長、岩佐副所長、吉村副所長

下村主幹、渡辺技術主幹、田代主査、馬渡主査、小山主幹、森主査

熊本城調査研究センター:網田所長、嘉村文化財保護主任主事

他

次第1	開会
-----	----

次第2	熊本城総合事務所所長 挨拶
-----	---------------

次第3	議事
議事1	第1回委員会における主な意見
議事2	熊本城の復旧状況
蓑茂委員長	資料1 第1回委員会における主な意見と、資料2 熊本城の復旧状況について、まとめてご説明をお願いしたい。事務局よろしく願います。
事務局	(資料1、資料2説明)
蓑茂委員長	どうもありがとうございました。資料1と資料2の説明に対して、ご質問などありましたら、お願いいたします。
蓑茂委員長	第1回の委員会では、この熊本城の復旧の問題というのは多様な関心をもっている方がいらっしゃるということで、その説明をきちんとしてほしいということだった。とくに基金の問題等について意見・質問があったと思う。 それから進捗状況について、どんなことが想定より早く進んだのか、あるいはどんなことが思い通りにいかなかったのか、ご説明をいただいたので、それに対するご意見があったかと記憶している。 とくにその中で、標準工程という問題の捉え方だとか、あるいは進捗していくカーブに応じて人員の確保ができると思っていたところができ

	<p>ないところがあったりして、平準化に移らなければいけない状況にあるということもご説明いただいた。</p> <p>それから大きく意見が出たのは、人材の問題。とくに人材を養成するということと、仕事を通じて育成していくというこの関係であるとか、あるいは、熊本城モデルというようなものを作るぐらいの意気込みでやってはどうかという、そういった意見もあったかと記憶している。</p> <p>それと、情報の公開ということ。長い時間をかけて復旧工事をやるのだから、固定されたやり方ではなくて、様々な手法を通じてやっていただきたい。そのようなこともあったかと思う。</p> <p>いかがでしょう。何かございますか。</p> <p>第1回の内容についてはよろしいでしょうか。後ほど資料の中で具体的なことは説明されるということですので。</p> <p>復旧状況についてもよろしいでしょうか。</p> <p>もしご了解いただけるようでしたら、資料1と資料2については了解したということにしたいと思う。</p>
--	--

議事3	熊本城復旧基本計画 全体工程の検証結果
蓑茂委員長	続きまして、本日のメインの議題であります、議事3 熊本城復旧基本計画 全体工程の検証結果 につきまして、資料3に基づいてご説明をお願いしたいと思います。
事務局	(資料3説明)
蓑茂委員長	<p>ありがとうございました。一番大事な全体工程の検証結果ということで、これをもとに基本計画の改定を行うことになるので、この部分について、たくさんご意見をいただきたいと思う。</p> <p>前回の委員会で、前振りとして聞いていたが、結果的に、それぞれの仕事の内容、それから工期、エリアといったことを考えて検証したということだった。</p> <p>計画というと、普通は目標を決めて、計画立案して設計をして施工するという、その流れ、単純な流れだけでも、今回の熊本城の問題は、調査をして、測量したり、分析をしたり、研究をしたり、記録をしたり、色々なことをやって達成しないとできない計画なので、非常に包括的である。単純ではない。そのところが、今回の検証でよくわかったのではないかと思う。</p> <p>これまでは、他のお城での事例を基に、最初の計画を立てたが、熊本城を復旧しているうちに、何度もフィードバックしていると、こういったことが非常に複雑で、大事だということがわかった。</p>

	そのことで、当初から予定していた計画の見直しというのを、この当初の5年が終わった段階でやりましょうというのが、この委員会の意味である。どうぞ皆さん、ただいまの検証結果について、意見などがありましたらご指摘いただきたいと思う。
山尾副委員長	資料3の標準工程の⑨番の事業報告書作成というのは、当初の計画の中では全く入っていない。しかし今回、22か月という数値が出てきて、先ほどの全体工程の流れの中で、事業報告書の作成は最後になっている。それについて説明していただきたい。
事務局	資料3-5のご説明でよろしかったでしょうか。標準工程の最後に事業報告書作成がきているということについて。
山尾副委員長	もともと標準工程には入っていなかった。だが今回、22か月というのが入ってくる。これがどうしてなのか。なぜ最初から入っていないのか。
事務局	復旧基本計画の冊子の48ページをご覧いただきたい。項目として、報告書作成は入れている。ただ工程として、単純に工事をして復旧するというところまでの工程・工期しか、当初は見込んでいなかった。前回の委員会で、北野委員から事業報告書の作成は非常に重要なものであるので期間をきちんと見込むようにとご意見をいただいたので、今回、そこを含めて見直して、工期を設定したというかたちになっている。
山尾副委員長	分かりました。報告書の作成は、やはり必要だと私も思う。これはこれでいいのだが、全体計画の中でも事業報告書の作成は最後か。
事務局	工区ごとに、復旧が終わったら事業報告書を作成するというように工程を引いている。
山尾副委員長	その流れが見えるところがあるのか。
事務局	今回の資料では、単純に櫓が治るとか、そういうところの工程まではお示ししているが、実務の中では、その後に遺物の整理をすとか、我々で報告書の文章を作成するという期間を見込んで、それを実務上の工程には踏み込んで反映していくかたちとしている。ただ今回の資料ではお示ししていない。
山尾副委員長	資料3-11は全体工程ですよ。⑨の事業報告書作成というのは1工程という意味か。
事務局	そうです。ひとつの工程です。工区ごとの工程の中では、これを標準として、工区ごとで報告書を作成してくというかたちで考えている。
山尾副委員長	もう少しそのへんは分かりやすく、いつやるのか、というのを入れた方がいいのではないかと。
事務局	建造物の工事、あるいは石垣の修理が終わり次第、同時進行で遺物の

	<p>整理を行うが、それが終わり次第、報告書の作成に入っていくというかたちで設定しているところ。この計画の中でそういったところが読めるようなかたちでお示していきたい。ありがとうございます。</p>
山尾副委員長	はい。ありがとうございます
蓑茂委員長	よろしいですか。他には。
伊東委員	<p>私は、今ご説明いただいた資料の内容については、問題ないというか適正にお考え頂いていると思う。説明の言葉の中にあつたように、今まで全速力で、スピード感を持ってやってこられたという、そのスピードを維持していくというのは大変なことだと思う。</p> <p>熊本城を守っている人も、すべての人が幸せにならなければいけないということもあると思うが、それ以上に、たとえば資料3-11の全体工程とか、3-6もそうだが、石垣の修理をこれまでずいぶん重ねてきて、石材の調査、それから工法の検討をやってこられている。蓑茂委員長のお話にあつたように、調査とか検討の部分にすごく時間がかかるということである。</p> <p>それに対して、上の方には建造物があるが、建造物のところには調査という文字が見えてきていない。当然それを織り込んで計画を立てられていると思うが、資料だけだと見えにくいかたちになっている。建造物の方にも、これから宇土櫓をはじめとする大物の修理が待っていて、大変な調査をしなければならないと思う。地震で壊れて、解体修理をしていく時に、見えない所がこれまでと違って見えてきたりして、これまで知られていない独特の技法があるとか、それから墨書が出てきて大工さんがわかると、宇土櫓の本当の建立年代が分かってくるというようなことになるかもしれないので、そういった調査を大事にして、十分な時間をとっていただいでやらなければいけないと思う。</p> <p>そうした時に、工期ばかりが頭の中にあると、工事が遅れた時に一番しわ寄せが来て、このメンバーだとならないとは思いますが、おろそかになりそうなのが調査の部分になる危険性もある気がするので、余裕を持った計画でやっていただきたい。この中で、やはり調査や検討などが建造物にもあるし、石垣についてもそうだが、それをきちんとできるような、余裕をもった計画を考えていただきたい。少しゆっくりやっていただいてもいいのではないかなと思っています。以上でございます。</p>
蓑茂委員長	<p>ありがとうございます。今のご指摘は、プロジェクトのマネジメントの仕方ですね。そう硬直的なものでは、なかなかうまくいかないということだと思う。それで変なところにしわ寄せがいくのはよくないということなので、検証の時はそのポイントはちゃんと押さえてやったという説明</p>

	責任が大事ですね。
北野委員	<p>全体工程を 5 年間検証して見直したところ、15 年間伸びると。この結果については、私も致し方ないと思います。市民、県民、国民には、1日でも早くという思いがあるのだろうけれども、阪神淡路とか東日本の震災からの復旧の中で言われてきたことは「ゆっくり復興していく勇気を持ちなさい」ということ。すでに復旧が終わったところの方からは、同じようなことを言われる。それは、早いに越したことはないが、ゆっくりと時間をかけていくことで、だんだん復旧の水準が上がっていくと。復旧過程もさらに次なる災害対策になっていくので、そういう期間として見ていけば、少し伸びることは決してマイナスではないというふうにも思っている。</p> <p>白川小峰城の石垣の復旧などで、まさにそういうかたちで、職人さんたちもやはり後半からすごく技術がアップしていて、復旧の仕上がりがよくなっていったということも言われている。</p> <p>先ほど山尾委員から事業報告書の話があったが、たとえば資料 3-6 の工程を見ていると、建造物とか石垣は、工事監理を請け負っておられるコンサルさんなどが、ある程度原稿を書いて編集の方に回すことができるが、この緑色の埋蔵文化財、あるいは石垣も、考古学的に調査する時には、そういう埋蔵文化財の担当者が関わるが、これはやはり調査した人でないと書けない部分が実はすごく多い。この 5 年間やってきたけれど、実はまだひとつも出ていない。すでに当時の大天守なんかに関わった調査員がいなくなってしまう。そういうことを考えると、工程的に、石垣だけだと 6 年ぐらいかかって、その後半に報告書に向けた遺物整理とかをやろうとしても、80 工区に再編成されたのはいいけれど、とても現状の体制でできるように思わない。体制整備をさらにきちんと図るということと同時に並行で、こういうものやっけていくセクションをちゃんと作っていく。そういう、もう少し細かいレベルの工程管理が必要ではないかなというふうに思う。事業報告書はまさに情報発信の一つにもなるので、皆さんおっしゃるとおり、しっかり遅れないように出してほしいなと思う。</p>
蓑茂委員長	<p>ありがとうございます。確かに事業報告書というもののイメージが、まだよくつかめない。個別にやっていったのを集大成するという書き方になっているから。実際は個別に全部やっていくわけでしょう。そのことがどこかで読めるようにしておいたらいいと思いますね。</p>
原委員	<p>資料 3-3 ですが、今、北野委員がおっしゃったように、工事工区の再設定ということで、とくに飯田丸エリアの方で、再分割された工区が出て</p>

	<p>いる。この原計画の工程の細分化をされるにあたって、他のエリアについても、工区の再分割については十分に検証された結果、73 から 80 のエリアへの分割のみで大丈夫ということでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り、実際のスケジュールを見据えたうえで再設定を行っている。原委員のおっしゃられたその他のエリア、それ以外のところは、実際はまだ着手していないということもあるため、これから復旧を進めていくうえで、5年毎の見直しにおいて再設定し直す可能性はある。全体の工程に一番大きく影響するであろう本丸エリアの部分を重点的に見たかたちで、今回の検証は行っている。</p>
原委員	<p>15年という延長期間が言われているが、やはり熊本城の復旧復興については、今後、次の時代に残していくという視点を踏まえて、今後も慎重に、見直しするところがあればぜひ見直しを図っていただきたいと思う。</p>
蓑茂委員長	<p>ありがとうございます。</p>
三浦委員	<p>分かりやすい検証結果をいただきありがとうございます。今回のこの再検証というのが、この熊本地震から今日まで、何回か地震や災害があったと思うが、そういうものも予測・予想しての工程なのか、それとも、一切そういうことが起きないであろうという予測の下で、計画通り進めばこういう風になるであろうという、希望的な検証なのか、どちらか教えていただければと思う。</p>
事務局	<p>そういった社会情勢の変化や、今後の災害がいつぐらいに起きるかというようなところは、なかなか計画に反映しづらいところ。今回はあくまでも、そういったものがなく、スムーズに復旧を進めるとするとこれぐらいかかるということとご理解頂ければと思う。</p> <p>先ほど蓑茂委員長からあったように、しっかりと5年毎の検証を実施していく中で、見直しを図って参る。災害の見通しについてはなかなか難しいが、物価変動や社会情勢の変化などについては、しっかり反映させながら進めていこうと考えている。</p>
山尾副委員長	<p>今の件で少しお尋ねする。この検証委員会は、前回から2回目で、5年後の今、見直しをしましたと。今初めてこの15年延長するという数値が出てきた。この検証を何もしないうちに市長が話をされたということは、我々はそのデータ、値が、15年というのが、あたかも決まったかのような印象を受ける。少なくとも検証委員会があるので、ここで皆さんが議論して、これが妥当で、やはりこれは仕方ないと言われて公表するならまだしも、それが先にありきでは、検証委員会の意味がないと思う。</p>

	<p>少なくとも検証委員会であるから、ここで皆さんがしっかり議論する場だと思う。非常に大変な作業をしてもらっているということは、熊本城文化財修復検討委員会に入っているから分かる。延ばすことも仕方ないだろうと。変えていかざるを得ないことも分かっている。ただ、やはり順番はあるのではないか。少なくとも私は、唐突にそういう数字を聞いたときにびっくりした。検証委員会をやっていなければそれは構わないが、検証委員会を開いているのだから、せめてそれを尊重して頂ければと思う。</p> <p>今後、当然見直しをしていくし、数値が変わるのも仕方ないし、今、各委員がおっしゃったように、文化財なので丁寧に普及していくのも本当に大事だと思う。そういう意味でも、この検証委員会の位置づけは、しっかり大事にしてほしい。</p>
蓑茂委員長	事務局から何かありますか。
事務局	<p>今、山尾副委員長のおっしゃった通りだと思っている。今回は市長の方で、検証委員会の前に記者会見で公表した。あくまで検証委員会に審議案を出しますという前提ではあったものの、いずれにしても、ここにいらっしゃる検証委員会の先生方に対しては、不快な思いをさせたのではないかと思う。今後私たちも気を付けて進めてまいりたいと思っている。申し訳ございませんでした。</p>
蓑茂委員長	<p>基本的には、事業主体として自己点検をしていただいている。その自己点検のやり方であるとか、手続きがきちんとしているのかというところを、検証委員会は検証するというところだと思う。</p> <p>ですから、15年という数字を決めるというよりは、むしろ手続きの部分を検証する。そして、こういう計画は、先ほども言った通り、非常に包括的な計画で、単純な計画ではないので、不確実性を多く含んでいる。そういう計画だということを検証することが大事。だから、順応的に対応していかなければいけないという方針をもって、今日の委員会に臨んだ。</p> <p>私としても、今の山尾副委員長のご意見の通り、やはり検証委員会と市の事業主体の立場のすみ分けは、きちんとした方がいいと思う。</p>
蓑茂委員長	<p>全体工程の検証のことについては、他にはよろしいですか。</p> <p>いくつか質問があり、それを補足していただいたので、この方向で検証をしたということで、ご了承いただけますでしょうか。</p> <p>それではご了承いただきましたので、次に参りたいと思う。</p>

議事4	熊本城復旧基本計画 改定素案(概要)
蓑茂委員長	<p>それでは、この全体工程の検証結果を受けて、改定をすることになる。改定の中身については第3回の委員会で具体的に議論することになると思うが、大枠について事務局から提案があるようなので、ご説明をいただいて、方向性として間違いがないかご意見をいただきたいと思う。事務局より資料4の説明をお願いします。</p>
事務局	(資料4説明)
蓑茂委員長	<p>ありがとうございました。大きな骨組みの変更と、修正を加えていく部分について説明をいただいた。何かご意見がありましたらお願いします。</p>
北野委員	<p>ご説明ありがとうございました。資料4-8、石工さん等の業者の確保の話だが、「見えてきた課題」の中、「継続的な石垣工事の実施」という中で、「復旧後の事業量も見据えたうえで技能者の適正量を考慮する必要もある」と。ここはちょっと意味が分からない。あまり石工をたくさん抱えても復旧が終わったら大変だよ、という言葉にもとれる。これからまた20年、30年と続いていく中で、ここは直近の課題。あまり将来のことを考えていてもだめで、石工さんたちも復旧事業が終われば本来の仕事があるわけで、石垣は復旧が終わってもメンテナンスの仕事、点検しながら良好な状態に保つという仕事がある。先ほど、三浦委員からのご指摘もあったように、何年か後に地震がやってきて、石垣は必ずどこかで崩れる。35年間の中で崩れないという保証はないし、日本の今の状況を見ていれば、またどこか崩れる可能性が高い。そうすると、それにすぐ対応できる人材というのは地元にはいなければいけないので、この書き方が、すごく気になったところ。</p> <p>石工、石工と言うけれど、いわゆる監理技術者というのか、あの石屋さんで番頭さんっていう、ああいう人が実は大事になってくる。今の発注形態を見ていると、大阪の業者さんが来て、そこの監理技術者の人がいろいろな石工を使って仕事をしているけれど、ああいう中にやっぱり一緒に地元の方も入ってもらって、監理技術者的な立場のスキルを身につけていく、知識を見つけていく体制を早急にとってほしい。</p> <p>今、実際に足りないのかどうか。例えばもう1チームぐらい、石工、監理技術者がいれば、もっとこの工程が早くなるのかどうか。そこら辺もよく分からない。いてもあまり工程が変わらないんだったら、そんな性急に集めなくても、という話になる。その辺、質問と、ちょっと意見が入っているけれども、お答えいただければと思う。</p>
事務局	ご意見ありがとうございました。私どもで番頭さんというか、石工世話役

	<p>という名前と呼んでいるけれども、そういった方が地元で育ってきて、そういった方に指揮をとってもらって、というのが理想かなと、我々も、進めてきて実感するところ。</p> <p>今、石工が足りていないかどうかという話だが、現状で足りていないわけではない。しかし、将来、事業量の平準化を図るといように適正な量に設定をしたが、事業がこれから増えてくるので、それを見据えると、やはり育成というのは重要と考えている。</p> <p>今、石工さんを増やして劇的に変わるかという、そうではなくて、他にボトルネックになっている部分もある。石垣の設計だったり、いろいろな検討もあるので、単純に工事のスピードを速めることが全体の工程が早くなるというところに直結はしないと考えている。</p>
<p>蓑茂委員長</p>	<p>熊本城を支えていた地域文化があると思う。そういったものが、どんどん衰退してきている。例えば、その昔は石造りでやっていたのに、もう全部コンクリートブロックでやるとか。そういう時代になっている。だからそういう伝統工法の保存みたいなことを、かなりやらないと、これから大変だと思う。</p> <p>だから、ある意味ではビッグチャンスなので、そういった時に、伝統工法の「もの」だけに関心をもつのではなくて、それを作る「人」に関心をもつということをもっと強く計画の中では書き込んだらいいと思う。そうしないと、念仏は唱えているけれども、では具体的に何が起きるのが見えない。見えるように書かないと、民間の力が出てこない。そこが一番大事だと思う。</p>
<p>原委員</p>	<p>3点ほどお尋ねをしたい。まず1点目は、今、蓑茂委員長がおっしゃいましたように、技能技術者の確保ということでは、育成も確かに大切ですが、これまで経験豊富な、そういうノウハウを持った 60 歳以上の高齢者の方々に、現場で知識や技能を発揮していただけるよう任期付職員制度を活用していく方法もあるのではないかと思います。</p> <p>2点目は、先ほど天守閣についてのご説明をいただいた。近々でいうと、来年の 12 月には、監物台櫓が復旧する。今回ここに触れていなかったのでお尋ねするが、監物台櫓は監物台樹木園、いわゆる国の施設の中にある。そうすると、いま復旧されているが、実際、樹木園の公開が1年先というタイムラグがでてくる。国と交渉しながら安全な通路を確保していただき、復旧後の監物台櫓が見学できるよう対応していただければと思う。</p> <p>3点目ですが、見える化ということで SNS を活用していろいろな広報展開をされており、こういったことを活用していくことが大事と思って</p>

	<p>いる。その中に、ただ文字で表すのではなくて、マンガの活用もしていただければと思う。</p> <p>特に小中学生に対しても、さらに石工の魅力を伝えることでも、マンガでの発信をしていただきたい。マンガは、コミュニケーションのツール、それから情報発信のツールとしては、非常に有効だと思うので、SNSの活用の中にぜひ取り入れていただければと思った。</p>
蓑茂委員長	ありがとうございます。では今の3点のご指摘について。
事務局	<p>1点目に、技術を持った方が、ご年配になられても現場に入っていたければというところ。もちろん私も、それは非常に大事なところで、おそらく時期的には、すぐ目の前に迫ってくると思っている。民間事業者への働きかけというのが、行政ができる部分かと思うし、今のところ、現場に60歳以上の方はあまり入ってきてはおられないと聞いているので、事業を進める中で、今回のご意見を参考にしながら、どうやればそういった状況が生み出されるかというところを検討して参りたいと思っている。</p> <p>2点目、監物櫓については、来年の12月までの工期で復旧完了する。現在は屋根瓦や壁の漆喰の工事などに取りかかっており、耐震補強も行うので、復旧後には安全に中に入れる状態にする。地震前も中に入っていたことはあまりなかった櫓ではあるが、ただ熊本地震からの復旧というところがあるので、しっかりお披露目できるようなかたちを取らなければいけないだろうと思っている。原委員がおっしゃったように、九州森林管理局さんとの協議も必ず必要になるが、とにかく皆様に見て頂けるようなやり方ができないか、しっかり検討して参りたいと思っている。</p>
事務局	マンガについて、見える化の中で、SNSの活用も含めて分かりやすく親しみやすい情報発信をということだと思う。熊本城の情報となると、難しい情報が出がちで、一般の方というか馴染みのない方にはなかなか受け入れにくいところもあるかと思うので、見やすい、わかりやすいものを使って、マンガも含めて、積極的に検討して参りたいと考えている。ありがとうございます。
事務局	原委員の方からご質問のあった1点目と3点目について、追加でお話したいと思う。1点目、ご質問の主旨と違うかもしれないが、私たち職員も、地震が発生して6年半が経ち、発災時にいた職員も異動でいなくなり、退職もしていく。しかしながら、やはり私たちがこの自身の記憶を風化させないためには、語り部的な仕事であったり、視察対応であったり、職員の当時のがんばりとか、そういったものをしっかりと受け継い

	<p>でいく役割も必要と思っているので、もちろん現場で働く皆さん方もそうだし、私たち職員も、そういった再任用等の活用というのは、大きなことだと思っている。</p> <p>3点目、マンガの活用ということで、本市の小中学生は、全生徒・全児童がタブレット端末を持っている。私たちは、熊本城の復旧の過程を、次代を担う子どもたちに、しっかりと見続けてほしいという思いがあり、どうにか小中学生にもっと目を向けてもらう手法がないのかということで、教育委員会とも話を進めており、タブレット端末を活用した子どもへの周知方法、学習方法の連携を考えている。そういった中で、マンガやアニメであるとか、子どもたちに馴染みやすいような、そういった目に訴えられるようなものもしっかりと織り込みながら進めていきたいと思っている。ありがとうございます。</p>
蓑茂委員長	他には。はい、どうぞ。
山尾副委員長	資料 4-8 で、先ほどの「石垣の復旧に必要な人材“石工”の確保と育成」というのは、最後に長期的な観点で継続して確保・育成に取り組むという非常に大きな課題をここに書かれているが、本当に具体的に、長期にわたってどういうことを実際するのかというのが全くここで見えてこないの、それをもう少し具体化して記述できないか。つまり、ある程度、こういうことをやります、ということがないと、次の5年経ってまた取り組みをしたというだけで終わってしまいそうな気がする。非常に大きな課題なので、やはりここだけはものすごくきちんと、ある程度どういう形で、どこが具体的にやるのかと、どこで検討してどういう形でやるのかというのを、もうちょっと具体化して見せていただければと思う。非常に大事なこと。育成するというのは本当に時間がかかる。そういう意味でも長期的なスパンを少し記述していただければと思う。よろしく願います。
蓑茂委員長	他にはよろしいですか。はい、どうぞ。
三浦委員	意見と質問と一緒に話させていただきたい。原委員からのお話と、事務局からのお話と、少し関係することだけれども、この前 SNS が大変話題になって、熊本城にもともと興味がある方は今までもチェックをしていらっやっただろうけれども、ここにきてようやく、興味が無かった人にも門戸が開いたような気がして、やっとスタートラインに立ったのではないかなと思っている。すごく喜ばしいことだなと思っている。15年復旧が長引くということで、それは逆に捉えて、もっともっと熊本城を愛してくださる方々が増えるのではないかなと、ロマンを感じている。その復旧の工程を見ながら見学ができるというのは、とても貴重な

	<p>ことだと思う。</p> <p>検証委員会の委員になってから、何度か熊本城を訪れたけれども、今回の計画の改訂にあたって、現場の意見、現場で働いていらっしゃる皆様の意見は、どのぐらい吸い取っていらっしゃるのかということが気になっている。例えば、資料 4-4。今現在公開されている日祝限定ルート、全日ルートというのがあるが、実際に入園客として入ってみて気づいたことは、たとえば二の丸駐車場に車を停めて、そのまま(北口から)ダイレクトに入れるかと思いきや、「日祝以外は入れません」と言われている方が非常に多かった。書いてはある。掲示はしてあるが、やはり皆さんそれは見ないで入ろうとされていて、なぜ入れないのかという理由も分からないまま、入口を案内されている。ちょっとそこが、優しくないなと思った。もう少し、ほんの少しの優しさを持ってお客様を迎えられるようなシステム作りが出来たら良いのかなと感じている。</p> <p>それから、教育機関と連携として熊本城にもっと触れていただく機会を増やしたいということだが、もちろん教育現場も大切だと思うし、マンガを活用するというのも、すごく素敵な意見だなと思うけれども、もっと家庭内、日常生活で熊本城を訪れられる機会を、もっともっと増やせるような、ファンを増やすことをしていければ、復興城主を増やすことにもつながるだろうし。観光にも少し力を入れることができるといいかなと思っている。</p>
<p>蓑茂委員長</p>	<p>はい。優しい案内を、というご指摘でした。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見ありがとうございます。現場とどれだけコミュニケーションがとれているかというご指摘だったかと思う。環境が変わる中で、限られたスタッフで運営しており、意見や情報の共有をやっているつもりではあるけれども、やはりおっしゃる通り、まだ少しできていない部分があるのは事実。そういう中でも、たしかに心配りというか、ホスピタリティというか、そこが非常に大切な部分だと思う。うまくご案内の対応ができなくても、ひとつちょっとした心配りがあれば、解決する部分もあるかと思うので、ご意見いただいたことを、一つでも二つでも現場に反映できるようにしたいと思っている。</p> <p>教育関係機関との連携に加えて、日常生活、家庭の取り込みというところで、市政だよりの 11 月号で無料券を入れている。市民の方でも、なかなか地震後の熊本城にお越しいただけていない方がたくさんいらっしゃると思う。そうした取り組みを行っているところだが、なかなかまだ実を結んでいないのが事実。たしかに、熊本城への支援を、という中でファンを増やすのはとても大事なことだと思うし、とくに市民・県民</p>

	<p>には親しみをもっていただくことが大切だと思うので、そこはまた積極的にご意見をいただいて、取り組んでまいりたいと思う。よろしくお願ひします。ありがとうございました。</p>
北野委員	<p>復旧復興の中で、防災教育というのは実はすごく大事なウエイトを占めると思うが、今の計画書の中で、学校教育でも生涯学習・一般市民もそうだが、いわゆる普及活動であるとか、やはり防災のための復旧というような視点で事業化しておくというか、一つの流れを作られた方がいいと思う。それはあまりこの計画書の中で見えてこない。</p> <p>震災前の熊本城に早く戻したいという思いはわかるけれども、このプロセスの中で防災、地震に対する理解を深めたり、来たるべき災害に対してどういうふうに我々が構えなければいけないとか、そういう部分の取り組みが一つの柱になっていると、計画としてはいいのかなと思う。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り、計画書の中では、あくまでも城内の安全管理をどうするかとか、災害時にどのように避難訓練をするとか、そういうところに留まっている状況と認識している。今の北野委員からのご意見については、確かにというところがあるし、熊本城だからこそ、地震がくるとこうなるとか、万が一昼間だったらどうなっていたかとか、想定もしやすい、想像もしやすいところは実際あるようにも思う。</p> <p>今、この時点で、今回この計画にそれをどこまで盛り込めるかというお返事は致しかねるが、首里城など熊本地震以降も各お城でいろいろな災害が起きているのも実情としてあり、蓑茂委員長は首里城の防災関係の委員もなさっておられるというところもあるので、今日はっきりとお返しはできないが、ご意見を踏まえながら、どこまでこの計画に今回の改定で落とし込めるのか、それとももう少し練って、次回の検証の中に盛り込むように匂わせて書くのかとか、私どものほうでしっかり一度持ち帰らせて頂いて、検討させていただきたい。</p>
事務局	<p>加えて、今回の計画書の見直しと関連して、この後で説明するが、シンポジウムを予定している。ぜひともその中で、地震に対する理解であるとか、防災の知識とか、そうした啓発はできると思うので、積極的に盛り込んでいきたい。</p>
蓑茂委員長	<p>短期施策で終わった天守閣の耐震化で相当やったのだから、建物だけの耐震化ではなくて、石垣の耐震化への展開とか、そういうのがどっかにあっていいんでしょうね。そうすると今、北野委員がおっしゃった話が十分入ってくると思いますが。北野委員どうでしょうか。</p>
北野委員	<p>人の行動ですね。人の意識とか、行動への防災意識の向上性というの</p>

	は、そういう面もぜひ今後の事業展開の中に入れてほしいと思う。
事務局	ありがとうございます。石垣や建物の耐震化はもちろんのこと、そこに加えていくということだと思う。一度検討させていただきたい。
蓑茂委員長	そろそろいただいた時間が来ていますが、よろしいでしょうか。 今日いただいた意見、改定の骨組みについて、防災だとか補足したほうがいだろうという部分と、それから、人材育成の話は、書いてはあるんだけど、ちょっと臨場感がないというのがあったので、具体的に、たとえばワークショップをやって、何かやり方が出来るのか議論していくとか、最初の一步を踏み出すところを、やはり書いてください。そうしないと前に進まないと思うから、ぜひ入れてもらった方がいいと思う。よろしいでしょうか。

議事5	今後のスケジュール
蓑茂委員長	最後の議題として、今後のスケジュールについて。それでは事務局からお願いします。
事務局	(資料5説明)
蓑茂委員長	それでは、本日の一番の課題でありました、全体工程の検証結果と、計画の改定の骨子について、ご審議をいただきましてありがとうございました。また次回も、よろしくお願いたします。

次第4	事務連絡
------------	-------------

次第5	閉会
------------	-----------